

症例検討会

平成22年8月 鏡島店

当店は眼科の門前薬局なので、白内障の手術にあたり患者様の服用している α 1遮断薬（ハルナールなど）について照会されることがあります。

白内障の手術時における副作用などについて調べてみました。

術中虹彩緊張低下症候群（I F I S : Intraoperative Floppy Iris Syndrome）

I F I Sは α 1遮断薬（前立腺肥大治療、高血圧治療）を服用中もしくは過去に服用していた患者さんで、水晶体乳化白内障手術中に観察されることがあります。

I F I Sは縮瞳型症候群の一種で

- ①術中の洗浄液流による虹彩の弛緩と膨張（虹彩がふにやふにやになり、手術中の水流によってうねったり、バタバタ動いたりする）
 - ②術中の進行性の縮瞳（手術の最中に瞳孔が小さくなる）
 - ③虹彩が水晶体乳化術の切開部へ脱出する顕著な傾向
- の3症状の併発が特徴です。

この副作用は手術がやりにくくなるというだけであり、患者様の普段の生活には何ら影響はありません。手術前に、あらかじめ予測できれば特殊な器具や薬剤を準備することによって、問題なく手術をすることができます。

患者様に守ってほしいこと

下記の前立腺肥大症や高血圧治療薬を服用している（服用した）ことを眼科医に必ず報告してください。

手術前に α 1遮断薬を休薬しても、手術への影響がなくなるわけではないので医師とのコミュニケーションが必要です。

白内障手術の予定がある人は、 α 1遮断薬を飲み始めないようにする。（主治医とよく相談する）

調剤薬局の役割

薬暦管理をしっかり行い、眼科医からの照会があったらI F I S発生の恐れのある α 1

遮断薬について情報提供を行う。

白内障手術を予定する患者に対して、あらかじめ I F I S について事前指導を行う。

参考

副作用の3分類によると、この I F I は「薬理作用」と考えられます。

α 1 遮断薬は前立腺や血管の交感神経 α 1 受容体を遮断すると同時に、虹彩付近の筋肉にある α 1 受容体にも作用してしまう。

この副作用が起こるまでの期間は半月～5年以上と人によってまちまちです。

術中虹彩緊張低下症候群を起こしうる薬

ハルナール	塩酸タムスロシン
アビショット	ナフトピジル
フリバス	ナフトピジル
ユリーフ	シロドシン
ミニプレス	塩酸ブラゾシン
デタントール	塩酸ブナゾシン
カルデナリン	メシル酸ドキサゾシン
エブランチル	ウラピジル

参考動画 URL です

http://www.orcaland.gr.jp/kaleido/cataract/surgery_video.html